

第 35 回 「三鷹散策の会」 報告

【テーマ】

三鷹駅南口から井の頭恩賜公園まで武蔵野の豊かな自然の中で歴史を感じながら散策する

【日時】 平成 30 年 5 月 24 日 (木)

【行程】 三鷹駅南口→風の散歩道→人気カフェ「八十八夜」でランチ→井の頭恩賜公園

PTA サークル「三鷹散策の会」は発足 12 年目を迎えました。

「様々な地域から来られた保護者の方が最寄りの地域を散策したこと」が「三鷹散策の会」の発足のきっかけであったという貴重なお話を今回参加された OB の方からお聞きすることが出来ました。

今回の散策は、学校の最寄り駅である三鷹駅から「風の散歩道」と呼ばれている玉川上水沿いを歩いて井の頭公園をまわるコースです。

学校のある三鷹市は太宰治、山本有三、武者小路実篤、瀬戸内寂聴、吉村昭、津村節子他多くの作家たちが住んだ街として知られています。

特に太宰治は昭和 14 年から玉川上水に入水する 23 年まで 9 年間、39 年の短い人生の最後の時を三鷹で過ごしており、三鷹駅付近に太宰治ゆかりの場所が点在しています。

今年は「太宰治没後 70 年 太宰治 三鷹とともに」といった特別展が駅ビルで行われ、駅近くには「太宰治文学サロン」もあり三鷹市イチ押し（推しメン？）の作家です。

そして井の頭公園は昨年開園 100 周年を迎えました。昨年 12 月には本校 P T A 主催で「生きもの仕事人」として有名な高野丈さんによる「井の頭公園の自然と共に生きる」の講演も開催されました。

「都市の自然がどんどん少なくなり、希少な緑のオアシスの井の頭公園は渡り鳥の中継地となり、いろいろな生きものが集まっており、身近な自然に興味を持つことで、生き物と環境を守っていき次の 100 年に引き継ぎたい」とのお話が強く心に残っていたので今回のコースを考えました。

三鷹駅南口に集合して、「三鷹という地名は江戸時代に三つの鷹狩りの場であった」という由来を学校と市のマークをお見せしながらお話しし、初夏を感じさせる日差しの中、井の頭公園迄の玉川上水沿いの道「風の散歩道」を、日差しを避け木の下沿いに歩きました。



風の散歩道



ポケットスペース



山本有三記念館

途中に小さな公園のような「ポケットスペース」にレリーフがあり、太宰治が玉川上水を「青葉のトンネル」と表現した「乞食学生」の一節が刻まれています。

太宰治は、三鷹生活を語る時によく取り上げられる武蔵野の西日について「毎日、武蔵野の夕陽は、大きい。ぶるぶる煮えたぎって落ちている。」と書きました。

この場所の西側に三鷹駅がありますので、夕方ここからこのシーンを体験できると思います。

レリーフの少し先に入水したとされた場所があり、故郷の津軽の石でできた「玉鹿石（ぎょっかせき）」が置かれています。

川沿いの木の下での散歩道をさらに進むと、その先に大正末期に建てられた本格的な洋風の建物の「山本雄三記念館」もあります。今回の散策では館内に入りませんでしたが、庭園から建物のたたずまいと雰囲気、紫陽花が咲く前庭から楽しみました。

記念館を出た後、すぐに「風の散歩道」が吉祥寺通りに突き当たります。

これを左折し、吉祥寺通り沿いに吉祥寺駅の方向に向かいました。（ちなみに右折して30分ほど歩くと本校に着きます。）

井の頭公園の入り口に開園当初からある石碑があり、「井の頭公園 100 写真集」の写真をお見せしながら昔を偲びました。



モノクロ写真提供：須田伸一（『井の頭公園 100 年写真集』ぶんしん出版より）

吉祥寺駅近くの人気カフェ「八十八夜」でランチを頂きながら参加者全員に一人ずつお言葉を頂きました。

今年度本校に入学した生徒のお母様が7名新たに参加されました。学校生活について、携帯の使い方や子育てについての悩みなどを意見交換、OBの方からは、現在の本校についてご質問もいただき、和気藹々とあっという間の2時間を過ごしました。



その後、昨年開園 100 年を迎えた井の頭恩賜公園に入り池のほつりを歩き、公園に生息する野鳥を見ました。(残念ながらこの時期に子育て中のかいつぶりは見られませんでした)

この後、江戸時代からも人気だった当時の玄関口である黒門を周る予定でしたが、池に掛かっている七井橋で雨が降ってきたのでその橋の上で解散となりました。

約 30 人で楽しく新緑の中を散策した半日でした。



散策の会は「鷹校」の横の繋がりだけではなく縦の繋がりも大事にしているサークルです。訪れる場所の都合上、残念ながら参加人数に制限がある時もありますが、興味がある回のみでも可能ですのでぜひご参加ください。

2018 年度散策の会代表 5 期生母 山邊 晶子